

# ○モデルを使って琵琶湖の将来像を描く-琵琶湖流域統合管理モデルの構築と改良

「琵琶湖流域管理システムに関する政策課題研究」(2008年-2010年)

コーディネーター: 佐藤 祐一

琵琶湖流域の自然・社会環境を解析する琵琶湖流域統合管理モデル(琵琶湖流域水物質循環モデル、琵琶湖周辺域景観評価モデル、琵琶湖魚介類モデル等必要なモデル)を開発・改良し、水資源、景観、魚介類など琵琶湖の多様な価値を総合的に考慮した目標の設定や方策について提案します。

## 研究の概要

2007年、滋賀県では、琵琶湖流域水ビジョンを策定しました。

そこでは、琵琶湖の将来像として、水質保全のみならず、琵琶湖在来の生き物がにぎわう琵琶湖を再生し、遊・食・住がもっと琵琶湖とつながっている状態を目指すことが掲げられています。

そのためには、琵琶湖を取り巻く様々な自然・社会環境の関連性について解析し、その多様な価値を総合的に高めるための具体的な目標設定や今後とるべき対策を明らかにしなければなりません。

取り組む内容は次の2つです。

○琵琶湖流域統合管理モデルの改良・構築および琵琶湖を取り巻く様々な自然・社会環境の関連性についてのモデル解析

○琵琶湖の価値について、その体系の検討と価値評価モデルの構築、価値を総合的に高めるための目標設定や対策のあり方の検討

